

たまねぎレポート【第376号】



平成31年2月26日

阪南青果株式会社

社内報

1月の天候は、東・西日本と沖縄・奄美では、気温高く、東・西日本の日本海側の降雪量はかなり少なかった。北・東日本の太平洋側と西日本の日本海側では、降水量がかなり少なかった。沖縄地方では降水量が多かった。全国的に、暖冬で降雨少なく旱魃傾向で、降水量は平年の10%以下の地域もあった。2月にはに入り、北海道では強烈な寒波に見舞われ、極寒や吹雪の日もあったが、全国的には平年に比べ温暖の日が多く、昨今は春めいた気候が続いている。

気象庁が発表した3～5月の3か月予報によると、平均気温は、北日本で高い確率50%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率60%。降水量は、東日本の太平洋側と西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は多い確率ともに40%である。

3月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪亦は雨の日の数が少なく、太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東日本の日本海側では、天気は数日の周

期で変わる。東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

4月、全国的に、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本では、平年に比べ晴れの日が少ない。

5月、北日本と東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

主要(市場)の動き

野菜の概況

1月の建値市場の野菜の入荷は、201,390トン前年比105%で、主要野菜の多くが増加し、前月に続き札幌・福岡以外の市場の入荷は、前年比増となった。平均価格はいずれの市場も前年を大きく下回った。市場別に入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比95%、平均単価はkg ¥ 203で前年比82%。東京市場の入荷は前年比107%で、平均単価は kg ¥ 242前年比75%。名古屋市場は前年比106%の入荷で、平均単価はkg ¥ 227前年比78%。大阪本場は前年比111%の入荷で、平均単価は kg ¥ 225前年比73%。福岡市場は前年比96%の入荷で、平均単価は kg ¥ 168前年比76%となっている。

建値市場の1月の玉葱販売量は、20,526トン前年比83%で、大阪本場以外は前年を下回った。平均単価はいずれの市場も、前年を大きく上回った。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は前年比90%で、平均単価はkg ¥ 109前年比131%。東京市場の販売量は前年比86%、平均単価はkg ¥ 144前年比134%。名古屋市場の販売量は前年比97%、平均単価はkg ¥ 122前年比127%。大阪本場は前年比106%、平均単価はkg

¥147で前年比132%。福岡市場の販売量は前年比52%、平均単価はkg ¥129前年比143%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の1月の主要野菜14品目の販売量は、87,756トンで前年比9%増、平均単価はkg ¥135前年比32%安となっている。販売量が前年比増の品目は、レタスが前年比26%増、ダイコンが23%増、ニンジンが19%増など8品目。前年比減の品目は、ピーマンが前年比18%減、ナスが14%減、キュウリが6%減など6品目。価格が前年比高の品目は、タマネギがkg ¥112で前年比24%高、サトイモがkg ¥312で16%高、キュウリがkg ¥404で1%高など3品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg ¥38で前年比71%安、ダイコンがkg ¥55で66%安、ニンジンがkg ¥87で42%安、結球レタスがkg ¥195で42%安など10品目となっている。

東京都中央卸売市場の1月の野菜の入荷は、115,548トン前年比107%（前月比88%）。平均単価はkg ¥242前年比75%（前月比105%）となっている。主要品目で前年比入荷増の品目は、レタスが135%、ダイコンが118%、ニンジンが117%、ネギとホウレンソウが113%など11品目。前年比入荷減の品目は、タマネギが前年比86%、ナスが91%、ピーマンが92%、キュウリが97%など4品目。販売単価が前年比高であった品目は、タマネギkg ¥144前年比134%、サトイモkg ¥339で113%、ナスがkg ¥460で101%など4品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg ¥37で前年比25%、ダイコンがkg ¥67で35%、キャベツがkg ¥100で50%、ホウレンソウがkg ¥535で66%、ニンジンがkg ¥103で66%など11品目となっている。

東京都中央卸売市場の1月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	115,548	106.7	88.3	242	75.4	105.2
た ま ね ぎ	8,179	85.9	84.0	144	133.6	119.0
は く さ い	14,178	105.6	91.8	37	25.2	98.4
キ ャ ベ ツ	12,805	108.3	90.7	100	50.3	138.9
だ い こ ん	10,975	117.7	93.2	67	34.6	136.7
に ん じ ん	7,049	117.2	80.3	103	66.4	93.6
レ タ ス	6,945	135.0	82.2	240	53.3	153.9
ば れ い し ょ	7,626	103.2	104.3	118	96.4	100.0
ね ぎ	5,200	113.4	86.0	275	75.6	93.9
ト マ ト	5,767	101.3	110.0	314	79.0	83.3
き ゆ う り	4,553	96.5	121.4	458	99.2	82.4
か ぼ ち ゃ	1,823	85.4	74.5	210	122.3	86.1
れ ん こ ん	670	96.5	54.0	435	90.7	96.7
な が い も	678	97.5	77.1	349	97.8	94.1
に ん に く	269	114.6	77.3	824	79.2	90.3

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の1月の玉葱の入荷量は、8,175トン前年比86%（前月比84%）で引き続き減少傾向であった。主力の北海物は、産地の在庫減で、入荷量は7,166トン前年比83%、占有率88%で前年比3ポイントダウン。

静岡物は、500トンの入荷で前年比135%、占有率6%前年比2ポイントアップ。中国物は、437トンの入荷で前年比122%、占有率5%で前年比1ポイントアップ。月平均価格はkg¥144前年比134%(前月比119%)で、引続き堅調で推移した。産地別の平均単価は北海物がkg¥136前年比134%。静岡物はkg¥282前年比97%。中国物がkg¥83前年比99%。入荷が前年比2桁減となった北海物が独歩高となった。

2月に入り、府県の早生は静岡に続き愛知の走りが入荷し、新物はギリ貧相場に、北海物は産地の強気筋の指示価格を受け、荷動き鈍化のなかで荷受け側の懸命な価格維持で保合相場を維持した。月半ばには、北海物も弱含みの展開になり、L大から値下がりに転じた。L大¥2,600~2,500の裏相場が発生し、産地の指示価格の維持が難しくなった。昨今では愛知物のお入荷増に加えて、長崎物のお入荷で新物は日々値下がりにしている。2月1日~19日の販売量は6,201トン前年比83%、平均単価はkg¥158前年比131%となっている。産地別では北海物が4,858トンの入荷で前年比79%、平均単価はkg¥143前年比140%。静岡物が972トンの入荷で前年比98%、平均単価はkg¥246前年比106%となっている。

名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の1月の玉葱の販売量は、4,980トン前年比97%(前月比62%)、前年比、前月比ともに減少している。主力は北海物で販売量は、4,844トン前年比96%、占有率は97%前年比1ポイントダウン。静岡物の販売量は85トン前年比149%、占有率は2%前年比1ポイントアップ。中国物の販売量は28トン前年比343%。平均単価はkg¥122前年比127%(前月比124%)。産地別の平均単価は、北海物がkg¥117前年比129%。静岡物はkg¥376前年比84%。中国物はkg¥77前年比89%となっている。

2月に入り、静岡物の入荷は増加傾向となったものの、Lの比率が少なくやや堅調な動きとなった。北海物の入荷は多くはないものの、荷動きが鈍く品薄感はなく、産地の指示価格の維持が厳しくなった。月半ばからは、愛知物の入荷が始まり、静岡物に売れ残りが発生し、新物の相場は軟調傾向となった。北海物も荷動き鈍化で、特にL大が動かず売り辛くなった。地場の愛知物は豊作傾向でL中心の入荷。3月中旬から碧南の出荷が始まり、地物が増える。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の1月の玉葱の販売量は、2,745トン前年比106%(前月比76%)、荷受けサイドでは、北海物の高値相場の維持に努め、産地からの直送品並びに転送品の集荷に努め、前年を上回る販売量を確保した。北海物主力の販売で、北海物は2,121トンで前年比106%、占有率は77%前年比と同じ。兵庫の冷蔵物は、482トンの販売で前年比99%、占有率は18%前年比1ポイントダウン。静岡物は127トンの販売で前年比118%、占有率は5%前年比1ポイントアップ。平均単価はKg¥147前年比132%。産地別の平均単価は、北海物がKg¥134前年比140%。兵庫物はKg¥163前年比121%。静岡物はkg¥297前年比97%となっている。

2月に入り、月初めは静岡物の入荷は予想したほどには増えず、引き合いが強まり強保合、北海物は荷動き鈍化も安値売り止めで保合を維持した。その後は、日を追って静岡物は抜き取りから総取りに変わり、球流れは裾物の比率が高くなったものの、相場は保合を維持した。兵庫の冷蔵物は、良品銘柄が増えたことで、こだわり筋の買いが回復し、総じて強保合で推移した。北海物の入荷は、減少傾向となったものの、2Lは給食需要に支えられ強含みの動きであったが、L大の動きが鈍く売れ残りが発生し、日を追って弱気配に転じた。月半ばからは、長崎物が加わり、新物の値下がり傾向が強まった。北海物も日々弱保合

の動きとなった。兵庫の冷蔵物は相場を維持した。2月1日～19日の販売量は、2,156トン前年比85%、平均単価はkg¥152前年比133%。産地別では、北海物の販売量は1,573トン前年比78%、平均単価はkg¥137前年比141%。兵庫物の販売量は338トン前年比104%、平均単価はkg¥159前年比110%。静岡物の販売量は207トン前年比115%、平均単価はkg¥254前年比107%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の1月の玉葱の販売量は、1,652トン前年比52%（前月比74%）で、前年比、前月比ともに大幅減となっている。主力は北海物で、販売量は1,296トン前年比44%、占有率は78%で前年比13ポイントダウン。中国物は284トンの販売で前年比145%、占有率は17%で前年比11ポイントアップ。愛媛物は34トンの販売で前年比173%、占有率は2%で前年比1ポイントアップ。平均単価はkg¥129前年比143%（前月比115%）で、堅調に推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥138前年比155%。中国物はkg¥71前年比92%。愛媛物はkg¥197前年比130%となっている。

2月に入り、北海物の入荷は減少傾向で、荷動きも今いちだったものの、相場は堅調で、20kg高値¥3,200に値上がりした。特にL・Mサイズは品不足で割高相場が続いた。長崎の早生物は天気が定まらず、中旬からの入荷となった。初荷相場は10kg¥3,000の高値販売となった。月半ばからは、長崎物の入荷が日毎に増加傾向となり、値下がり基調になった。北海物は、入荷減で高値が続いたために、量販店の多くは、売り場を縮小したことで、品薄が解消した。2月1日～19日の販売量は1,106トン前年比72%、平均単価はkg¥141前年比128%となっている。

2月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷130トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥3,000～ L大 ¥3,000～2,800、 L 入荷なし

M 入荷なし

北 海 20kgNT2L ¥2,650～2,600、 L大 ¥2,650～2,600、 L ¥2,600～2,300、

M ¥2,200～

【太田市場】 入荷389トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,700～2,600、 L大 ¥2,800～2,500、 L ¥2,800～2,500、

M ¥2,100～2,000。

静 岡 10kgDB2L ¥1,400～1,300、 L ¥1,800～1,700、 M ¥1,600～1,500、

B ¥1,500～1,300。

愛 知 10kgDB2L ¥1,200～1,000、 L ¥1,600～1,500、 M ¥1,400～1,300、

S ¥1,000～ 900。

長 崎 10kgDB2L ¥1,100～1,000、 L ¥1,300～1,200、 M ¥1,100～1,000、

S ¥900 ～ 800。

【名古屋北部】 入荷296トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,800～2,700、 L大 ¥2,900～2,800、 L ¥2,800～2,700、

M ¥2,300～2,100。

静 岡 10kgDB2L ¥2,000～1,800、 L ¥2,200～2,000、 M ¥1,900～1,800、

B ¥1,800～1,700。

愛 知 10kgDB2L ¥1,800～1,700、 L ¥2,000～1,900、 M ¥1,800～1,700。

【大阪本場】 入荷76トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥2,800～2,600、 L大 ¥2,800～2,600、 L ¥2,800～2,600、

M ¥2,100～2,000。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,400~1,300、 L ¥1,600~1,300、 M ¥1,500~1,300。

静 岡 10kgDB2L ¥1,800~1,500、 L ¥2,200~1,800、 M ¥1,900~1,800、

B ¥1,800~1,500。

長 崎 10kgDB2L ¥1,600~1,400、 L ¥1,800~1,600、 M ¥1,600~1,500、

S ¥1,300~1,200。

【福岡市場】 入荷145トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥3,200~2,800、 L大 ¥3,200~2,800、 L ¥3,000~2,600、

M ¥2,600~2,300。

長 崎 10kgDB2L ¥1,400~1,000、 L ¥1,400~1,000、 M ¥1,400~1,000、

S ¥800 ~ 700。

供給(産地)の動き

国内産地

3月も主力は北海道物だが、長期貯蔵物以外は終盤期を迎える。他方、府県の早生物の出荷は、静岡物はピークを迎え3月後半から減少傾向となるものの、長崎、愛知、佐賀物が日を追って増加する。

北海物は、長期貯蔵物以外は歩留りが悪く、産地格差はあるものの越年の歩留まり率は平年を5~10%ダウンしている。初期には、早期定植で豊作が期待されたが、6月の多雨日照不足が影響し、作柄不良と品質劣化に見舞われた。現在、出荷の主力は北見管内のJAだが、各地区に春高を期待した向きの在庫があり、市況の軟化と商品化率の低下に焦りが見受けられる。既に、全道的に次シーズンの播種作業が始まっている。

府県の極早生は、既に静岡物のお荷はピークを迎え、3月後半からは減少に向かう。他方、愛知、長崎、佐賀物のお荷は日を追って増加する。いずれの産地も早

生の作付は増反傾向にある。3月の主力は静岡と長崎物になるが、静岡物の月割出荷は2月に次いで多く、通期の37～40%を占める。長崎物は増反傾向にあり、収穫は抜き堀から総堀りに移行している。人手不足で、手間が掛かり収量の少ない抜き堀りが敬遠されている。集出荷業者に人手応援の要請が強く、人手を派遣出来る業者に荷物が集まる傾向にある。出荷は此の先ピークを迎える。作柄は平年並みか平年を上回る。従来産地の諫早地区では、早生の生育は極めて順調で、3月末から出荷が始まる。佐賀の中心産地の白石地区は、近年べト病被害が多発したことから中晩生が減反傾向にあるものの、マルチ栽培の早生は増反傾向にあり、生育は一時期停滞したが、現在は回復して平年作以上は確保出来ると見ている。3月半から太良地区から順次出荷が始まる。

外国産地

1月の輸入は、速報値で27,626トン前年比124%で増加傾向にある。国別では中国が25,365トン前年比118%。アメリカが2,149トン前年比559%。韓国88トン前年は入荷なし。となっている。3～4月も中国主力の入荷で、ニュージーランドは、高値のため、成約は進んでいない。

中国、日本向けメイン産地の甘粛省の在庫が予想より多く、値下がり傾向で現在価格は、C&F・剥き玉 \$7.50～7.20。3～4月も入荷は前年を上回る予想。

ニュージーランドは、欧州に軸足が向いており、価格高で殆ど成約は出来ていない。日本の加工原料不足を察知し、現地からB級品の打診はあるが、成約は殆ど出来ていない模様。

オーストラリア、タイは常連の契約はあるものの、新規の成約は殆どない。

3月の市況見通し

2月の野菜は総じて入荷増の市況安となったが、玉葱だけは弱含みに転じたも

のの高値水準を維持した。北海物の在庫減で出回りが前年をかなり下回ったことによるが、オランダが不作で欧州が高値市況となり、ニュージーランドを始め日本向けの産地が欧州に軸足をおいたことで、中国以外からの輸入が激減していることが追い風になった。3月は府県の早生物が出回ることで、需給関係はかなり緩和されるとともに、北海物は高値続きで需要が減退傾向にあり、此の先静岡に続き長崎、愛知、佐賀物の出荷が日毎に増加することで、市況は軟化傾向となる。特に府県物が続落歩調となり、連れられて北海物も緩慢な値下がりに向かう。3月半ばには、北海物のL大、Lは¥2,500~2,300、長崎物はL¥1,200~1,000と予想する。(了)